

言いたい言葉が出てこない…

⇒時間をかけてゆっくり話しかけましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

認知症の初期によく見られる症状として、**失語**があります。

失語とは、**話す・聞く・読む・書く**という**言葉にまつわる機能が低下**し、“自分の言いたいことが言えない” “物や人の名前を思い出せない” “他人の話す内容を理解できない” といった状態です。“文字を読めない” “文字を書けない” など、読み書きに障害がでることもあります。

しかし、**常に症状が表れるのではなく**、正常な部分と認知症の部分とが混じり合っています。とくに初期は、しっかりしている面が多いので、せかしたり叱ったりしてしまいがちです。大事なことは、**本人の気持ちを察してコミュニケーション**を取ることです。

【 対応方法 】

- ①話をする時間をつくって、**同じ話を何度でも丁寧に聞く**ようにします。「もう聞いた話だから」と面倒くさがらずに、時間をかけて話しかけると心が落ち着いて理解の度合いは高まります。
- ②手帳やノートにメモをとって、言ったことの**要点を示しながら**聞きましょう。ときには、絵をかいて示しながら話すのも一つです。
- ③「**イエス**」「**ノー**」で答えられるような質問にしましょう。
- ④認知症の人は、昔のことはよく覚えている場合も多いので、**昔の話**を聞くようにしてみましょう。そういう話から言いたい言葉をみつけたり、物や人の名前を思い出せることもあります。
- ⑤いろいろな人（ユーモアのある人、笑いの多い人など）に話相手になってもらいましょう。家族はもちろん、介護スタッフや友人、近所の人などと会話する機会を積極的にもつようにしましょう。言葉を忘れても、**コミュニケーションを楽しめる**関係でいられることが大切です。
- ⑥言いたいことを推測し、**具体的な言葉**に置き換えながら会話をしましょう。

「何か探してる？」ではなく「めがね？」
「つえ？」と聞いてあげましょう。

